

令和八年度

水について考える

第四十八回 「全日本中学生水の作文コンクール」 茨城県優秀作品集

茨城県

第四十八回 茨城県優秀作品（令和八年度）

【最優秀賞】

あの日の晴れの先に

水戸市立第四中学校

三年

佐藤 さとう 藤

莉桜 りお

.....

1

【優秀賞】

水辺の生き物を守る

茨城大学教育学部附属中学校

二年

山崎 やまざき 崎

千鶴 ちづる

.....

3

限りある水について

茨城大学教育学部附属中学校

一年

須藤 すどう 藤

玖桃 くるみ

.....

5

水の大切さについて私が思うこと

茨城大学教育学部附属中学校

一年

田上 たがみ 上

綾乃 あやの

.....

7

大切な水

水戸市立第四中学校

三年

木村 きむら 村

郁来 いく

.....

9

【入選】

当たり前にあるものの大切さ

茨城大学教育学部附属中学校

二年

丸山 まるやま 山

咲千 さち

.....

11

走りたい。そのために水がいる

常陸大宮市立山方中学校

三年

戸田 とだ 田

真生 まお

.....

13

水が教えてくれたこと

日立市立十王中学校

三年

佐藤 さとう 藤

優衣 ゆい

.....

15

雨不足と私たちの生活

水戸市立笠原中学校

二年

米田 よねだ 田

愛理 あいり

.....

17

当たり前ではなかった水

水戸市立第四中学校

三年

鈴木 すずき 木

一花 いちか

.....

19

「水の日」及び「水の週間」について

.....

第四十八回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について

.....

第四十八回

茨城県優秀作品

（令和八年度）

最優秀賞

あの日の晴れの先に

水戸市立第四中学校

三年 佐藤 莉桜

晴れ、晴れ、また晴れ……。判で押したような天気予報をながめながら食パンを頬張る。最近、水戸市では雨が少ない。登校が楽になってうれしいな。そう心の中でつぶやいて、足取り軽く学校へ向かった。雨を切実に願う日が来るなんて、このときの私はまだ知る由もなかった。

ある朝、じゃ口をひねると流れ出す水にカビのような匂いが混じっていることに気がついた。「少し臭うくらい大したことではない」と自分に言い聞かせた。いつの間にか「無臭の水」が当たり前になっていたからこそ、その変化に違和感を覚えた。一月の降水量はほぼゼロ。気候の変化が、すでに日常の中に入り込んでいた。

その小さな変化をきっかけに、私は普段意識しない「水」について考えるようになった。川や自然とのつながりを確かめたくなり、近くの石川川へ向かった。母校の校歌にも「石川川も清らかに」と歌われており、この地域にとってなじみ深い川だ。しかし、目の前の川の水は濁り、人工的な泡が水面に浮かんでいた。日差しを受けて、何かがきらりと光った。それはよく見ると空き缶だった。見えないからといって、軽い気持ちで捨てられたのだろうか。私たちの何気ない行動が、どれほど多くの生き物たちの居場所を奪っているのかを思い知らされた。家に帰って母にそのことを伝えると

「小学生の頃、石川川によくホタルを見に行ったのよ。」

と母は静かに言った。かつては川岸に草が生い茂り、小さな命が息づいていたという。夜の闇に浮かぶホタルの光は、自然の豊かさそのものだったのだろう。その言葉が、今の川の姿と重なって胸に残った。

さらに祖父にも話を聞いた。六十年前の川は澄んでいて、オイカワなどの魚が泳ぎ、よく魚釣りを

していたという。水道がまだ十分に整っていないかった時代、井戸水をくむと、その冷たさや重みを通して水の存在をはっきりと感ずることができたそう。祖父にとって水は、日々欠かせないものとどまらず、人と自然を結ぶ「生きた恵み」だった。

現代ではじゃ口をひねれば安全な水が出てくる。その便利さの中で、私たちは水の源を意識する機会を失いつつある。地下水や川といった自然循環の上に、今の生活が成り立っていることを忘れてしまいがちだ。こうして考えるうちに、水は当たり前存在するものではなく、限られた自然の恵みなのだと気づいた。

世界には今も水不足に苦しむ地域があり、日本でも異常気象による降水量の変化や水質の悪化が起きている。それは遠い話ではなく、すでに自分の生活の中に現れている。

では、自分にできることは何だろうか。まずは水が無駄にしないこと。コップを使って口をゆすぐ習慣も、その一つだ。次に、水を汚さない意識を持つこと。洗剤の量を減らすなど、小さな工夫でも意

味はある。そして、身近な川や自然に関心を持ち続けること。理解が深まれば、行動が変わるはずだ。

水は単なる資源ではなく、人と自然をつなぐ存在だ。かつて当たり前に使っていた水の向こう側に、川や命が繋がっていることを知ってから、世界の見え方が少し変わった気がする。あの日、晴れが続くことを喜んでいた自分はもういない。今は、ほんの少しだけ、空を見上げて雨を待つ気持ちがある。

優秀賞

水辺の生き物を守る

茨城大学教育学部附属中学校

二年 山崎 千鶴

私はシジミの味噌汁が大好きだ。小学校の校外学習で涸沼のシジミの味噌汁を飲んだ時、その粒の大きさとおいしさにとても驚いたのを覚えている。

味噌汁にするシジミの多くはヤマトシジミという品種だが、これは涸沼のような汽水湖に特有のシジミだという。その校外学習で学んだのだが、涸沼は涸沼川からの淡水と太平洋からの海水が入り混じった、川と海の間地点のような場所である。

昨秋からこの冬にかけて、日本各地では降水量が少なく、水不足だと報道されていた。私の住んでいる水戸ではなんと八十四年ぶりに一月の降水量がゼロミリだったという。雨が降らなかったこの時に、私は水道の水の匂いがなんとなくいつもと違って土

臭いように感じた。ちょうどその頃、水戸市では「飲み水がかび臭い」「泥臭い」といった苦情がたくさん寄せられたという。原因は取水している那珂川の川底の藻だったらしい。川の水量が減り、太陽光が川底に届きやすくなったことで藻が増殖し、藻の生み出す悪臭物質が増えたことが原因とされる。人体に影響はないというが、臭い水は使いたくないと思った。そして、那珂川の水量が少なくなつたということは那珂川水系からの水が流れ込んでいる涸沼にも影響が出たのではないかと思い当たつた。

涸沼は先にも述べた通り「汽水湖」である。那珂川水系の涸沼川からの淡水だけでなく、太平洋からの海水も流れ込んでいる。だから、水不足になつても相対的に水分量に大きな変化は出にくいようだ。しかし、淡水の量が減り、海水の割合が増えたら、涸沼の塩分濃度が上がってしまう。それから、川の水量が少なくなつたら川の流れの勢いを失ってしまうから、涸沼がよどんでしまうのではないか。それは、ヤマトシジミには生きにくい環境になってしまうと

思う。

調べてみると、ヤマトシジミは比較的いろいろな塩分濃度に適応しやすい品種で、急な影響は出にくいという。しかもともと降水量の少ない冬は生物の活動性も低いし、短期的な影響は小さいというものだった。ほっとした気持ちになったが、この春から夏にかけても雨が少なく塩分濃度が高いまま維持されてしまい、水はよどみ、繊細な稚貝は育ちにくくなるだろう。

そんな水質の変化に適応してきたはずの涸沼のヤマトシジミも年々漁獲量が減っているという。

二〇一一年の東日本大震災で涸沼の一带は震度六弱という揺れだった。地震によって起こった地盤沈下と、津波によって、沼の底にある砂や砂利に変化が起きたそうだ。これによりヤマトシジミの住む場所が変わり、漁獲量は数年で四分の一に激減してしまった。

震災ほど急で大きな変化はないかもしれないが、ここ最近の雨量の変化による塩分バランスの変化はヤマトシジミの生育にじわじわと影響をおよぼすの

ではないだろうか。

涸沼は二〇一五年にラムサール条約に登録された。正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」という。この条約は水鳥の保護だけでなく、私たちの生活と結びついた大切な生態系として湿地の保全と再生を呼びかけている。涸沼の近隣地域の人々の仕事や生活と密接につながり、涸沼の生態系を維持しつつ、そこから得られる恵みをこれからもずっと活用できることを条件にしている。水鳥のエサとしてのシジミや水生生物が減ったり、プランクトンの異常発生が起きたりして生態系が乱れると、せっかくのラムサール条約の価値がなくなってしまう。節水を心がけ、可能な限りの努力の積み重ねが、水辺に暮らす生き物のすみかや、得られる恵みを守る一歩になるのだと思う。

優秀賞

限りある水について

茨城大学教育学部附属中学校

一年 須藤 玖 桃

私はこれまで水をめったに意識することなく使ってきました。朝起きて顔を洗い、学校に行く前に一杯の水を飲む。それが当たり前で水はすぐ近くにあります。よく水不足、水を大切にしようと思いますが深く考えたことはなかった。「なぜ私達はいつでも水を使えるのか」考えてみようと思います。

最近、家族で出かけた時大きなダムを見ました。その時私は、ダムにはどんな役目があるのか気になり、家に帰って調べてみると、ダムには、私達の生活を支える大切な役目があることが分かりました。まずダムには洪水を防ぐ働きがあります。大雨が降ると川の水が増えますが、ダムが水をためることで

急に水があふれるのを防いでいます。もしダムがなければ、家や道路が水につかってしまうかもしれません。ダムは人々の安全な暮らしを守っているのだと思います。また、ダムは必要な時に使えるように水をためています。夏になると水不足のニュースを見かけることがあります。雨が少ないと、生活に必要な水が足りなくなってしまう。そんな時のために、ダムが大切な役目を果たしていることが分かりました。さらに、私達が毎日飲んでいる水道水もダムと深く関係しています。蛇口をひねれば綺麗な水が出てきますが、それは当たり前ではありません。ダムにためられた水が綺麗にされて、私達の家まで届けられています。たくさんの人の努力によって、安全な水を飲むことができますのだと感じました。茨城県のダムは、特に久慈川や那珂川の周りで災害から人々の生活を守り、地域の仕事にも役立っています。茨城県は、農業がさかんなので、田んぼに水を送るダムもとても重要です。ダムは丈夫なコンクリートできていて安全な上、周りの自然や景色とも調和し、観光にも利用されています。

さらに私は、これからの水の使い方についても考えました。今はダムにためた水が私達の生活を支えています、これから先もずっと同じように水を使い続けられるとは限りません。雨が少ない年には水不足になることもあるので、水を大切に使うことが今まで以上に大切になると思います。私は、ダムにたまった水だけに頼るのではなく、雨水や一度使った水を綺麗にしてもう一度使う「水の循環」をもっと広げていくことが、必要だと考えました。例えば、家庭でも雨水をためて庭の水やりに使ったり、お風呂の残り湯を洗たくに使ったりすることが出来ます。そうした小さな工夫でも、水のむだを減らすことにつながります。さらに、ダムや川、海へと続く水の流れを人がきちんと守りながら、自然の力も生かしていくことが大切だと思います。ダムの役目を知ったことで、水は当たり前にあるものではなく多くの人の努力や自然の恵みによって支えられていることが分かりました。

私は将来、こうした水の循環を守り、よりよい形にしていく取り組みに関わりたいです。私たちは

毎日の生活のあらゆる場面で水を使っています。しかし、その水は決して無限にあるものではありません。水を当たり前のものだと思う、一人ひとりが大切に使うことが必要です。蛇口をこまめに閉めたり、必要な分だけ使ったりする小さな心がけが、水を守ることにつながります。限りある大切な資源として、水を大事にし、誰もが安心して水を使える未来を作っていきたいです。

優秀賞

水の大切さについて私が思うこと

茨城大学教育学部附属中学校

一年 田上綾乃

私の家は、兼業農家です。毎年、一・四七ヘクタールの田んぼで稲を育てています。お米は日本人にとって主食であり、美味しいお米をつくるために水は欠かせません。しかし、近年雨が降らなかったりもしくは集中豪雨で一時的に短時間だけしか降らなかったりしています。そのような状況で用水路の水が不足すると、稲が育たず、結果として収穫量が減ってしまうことがあります。これは私たち農家の生活に直接影響を与えるだけでなく、消費者である皆さんにも影響を及ぼします。

水の供給が不安定な場合、農作物の品質や量に影響し、お米の価格高騰に反映されることもあります。昨年がまさにそのような状況でした。私の住ん

でいる常澄地区は海に近い所にあります。水不足で川の水位が下がると、田んぼに水を引く採水場所まで水が逆流してしまいました。だから、田んぼの土が割れ、稲が枯れてしまいました。また、温暖化でお米につく種類のカメムシが大量発生します。そのため、成熟期の柔らかい稲穂を食い荒らしてしまい、精米した後黒く残って、品質がAランクからCランクに下がってしまいました。

現在、農業は私たちの生活において非常に重要な役割を果たしていますが、その一方で水の汚染の原因にもなっています。特に、化学肥料や農薬の使用が水を汚す原因です。これらの化学物質は、雨水とともに地下水や川に流れ込み、健康に悪影響を及ぼす可能性があります。私は、よく兄妹と田んぼの用水路でメダカなど生き物をとっています。しかし、その時とったのは、とても弱っているザリガニでした。父に話を聞くと、用水路に農薬が流れ、その用水路にいたザリガニが弱ってしまったと言っていました。このように、水の汚染は、生き物にも大きな影響を与えてしまうのです。そのため、農薬や化学

肥料の使用を減らしたり、合鴨農法や合鴨の動きを再現したアイガモロボを使用したりします。また、深水管理といって、田植えのあと水位を高くすることで雑草に日光が当たりづらくなり草の成長をおさえる方法もあります。

家では、田植えをする前にこのような工夫をしています。温湯消毒といって、十分に乾燥した種もみを袋詰めし、約六十度のお湯に十分間ほど付けるなどして無農薬で消毒しています。このように、農薬の使用を減らすため、農薬における水の使用方法や管理方法を見直す必要があります。

また、雨が降らなかったり、水が不足してしまったりすると農業以外にも問題が発生してしまいます。私の父は消防士として働いており、以前、山火事の際に緊急消防援助隊として支援に行ったことがあります。日本は、山が多く、また山火事もひんぱんに起こります。このように、雨が降らず、乾燥することによって全国で火事が増えてしまいます。水は火を消すためにも重要であり、火事の被害を最小限におさえるためには欠かせない存在です。

このように水は、あらゆる場面で使われており、生きるための重要な資源です。多くの国々では、水不足や水質の悪化が深刻な問題となっており、日常的に安全な水を確保することが難しいといわれています。日本のように安全で清潔な水を飲める国は、多くありません。水は、私たちの命を支えるものです。だからこそ、安全で安心な水を飲めることに感謝し、一人ひとりが水が無駄にしないよう心がけることが、未来の水を守るために必要です。お風呂や水道などの水をこまめに止めたり、油汚れは紙や不要な布で拭き取ってから洗ったりするなど、水の使用を見直し、節水を心がける。私たちが日常生活の中でできることはたくさんあります。今、私たちにできることを考えていきましょう。

優秀賞

大切な水

水戸市立第四中学校

三年 木村 郁来

私は水が大好きです。日常で口にする飲み物と
いったらほとんどが水です。外食に行ってもドリン
クバーなんかは頼まず、水を飲みます。物心ついた
ときから、食事のそばに置いてあるコップにはいつ
も水が注がれていました。私の日常にはいつも水が
ありました。私の人生に水は不可欠です。もし、私
の人生が終わったときには、エンドロールのいちば
ん最初に水を書きたいなと思っています。

そんな風に水を愛してやまない私ですが、いつ
ものように水を飲もうと蛇口をひねったとき、ふと
思いました。この蛇口から流れてくる水が、安全な
ものだと確証をもって使えるのは誰のおかげなのだ
ろうか、と。私は今まで、家の蛇口から流れる水を

体の中に取り入れて、死の危険を感じたこともない
し、お腹をこわしたこともありません。ということ
は、もちろん誰かが安全できれいな水を作ってくれ
ているということです。その人は誰なのでしょう。か
見ず知らずの人のために、人生においてかかせない
ものである水を安全なものにして、届けてくれる
人は誰なのでしょう。浄水場できれいな水が作られ
ていることは、もちろん知っています。ですが、そ
の浄水場で働く一人一人の方々には目を向けたこと
ってないなと思いました。そこで私は思いました。
浄水場で働く方々は、もっとたたえられるべきでは
ないかと。水は人間の体のおおそ六十パーセント
ほどを占めています。人間は水なしでは生きていけ
ません。そんな生命維持装置みたいなものを作って
いるのだから人々はもっと浄水場およびそこで働く
人々をもっとたたえるべきだと思います。ここに書
いて浄水場に関わっている方々に届くことはないと
思いますが、感謝を述べます。いつも本当にありが
とうございます。

もし、災害時に水が使えなくなってしまったら、

支えられる「水」に関われる仕事に就けたら、すごくほこらしいと思います。

私はどうすればいいのでしょうか。水が使えないってつまり、トイレをしたら流せないし、顔も洗えないし、歯みがきもできないし、米をたくこともできないし、衣服を洗うことも、のどがかわいたとき、気軽に水を飲むこともできないってことですよね。私はこれを書き出してみて、人間の生活が思っているよりずっと水に支えられていることに気づきました。私のそばにはずっと水があったと述べましたが、それってものすごいことなんです。世界では、水の確保するために学校にも行けていない子供がいるそうです。それをふまえて考えてみると、学校に行けて、簡単に水を手でできる私は、すごく恵まれていることが分かりました。改めて、水の大切さを実感しました。きっと、この作文を書いていなかったら、気づけないことだったと思います。水の作文を書くことを選んで良かったです。

私には将来の夢がありません。ですが、この作文を書いて、水に関わる仕事に就くのも良いなと思いました。もちろん、これから他に自分になりたいと思う職に出会うと思います。ですが、人の人生を

入 選

当たり前にあるものの大切さ

茨城大学教育学部附属中学校

二年 丸 山 咲 千

「水って、本当に大切だね。」ある日、家族とそんな話をしたことがある。普段の生活では、蛇口をひねればきれいな水が出てくるのが当たり前で、特に意識することはなかった。のどがかわけばすぐに飲めるし、料理にもお風呂にも自由に使える。私はそんな便利さを疑いもせず、毎日を過ごしていた。しかし、ある話を聞いたことをきっかけに、その「当たり前」がどれほど大切なものなのかを深く考えるようになった。

それは、昔お母さんが経験した災害での断水の話だ。突然水が出なくなり、家の中は一気に不便になったという。飲み水はペットボトルに頼るしかなく、料理に使う水も限られていた。家族は米を炊く

にも苦勞し、少しの水を大切に使いながら食事を作っていたそうだ。さらに、トイレも自由に使えず、生活のあらゆる場面で困ることが増えたと聞いた。私はその話を聞いて、「水がないだけで、こんなにも生活が変わってしまうのか」と驚いた。普段は気にも留めていなかった水のありがたさが、急に重く感じた。

お母さんは断水中、何度も「水が出ればいいのに」と思ったという。しかし、その願いはすぐにはかなわず、時間がかかったという。蛇口をひねっても何も出ない現実を前に、水がある生活がどれほど恵まれていたのかを、実感したそうだ。水はただの透明な液体ではなく、私たちの生活を支える大切な存在なのだと、私はその話から強く感じた。

この話を聞いて、私は「当たり前にあるものほど、その価値を忘れやすい」ということに気づいた。普段の生活では、水がどれだけ使われているかを意識することもないし、意識したこともない。けれど、飲むこと、食べること、体を洗うこと、トイレを使うこと。どれも水があるからこそ成り立っている。

もし水がなかったら、私たちの生活は一瞬で不自由になってしまう。だからこそ、水は「当たり前にあるもの」ではなく、「守っていくべき大切なもの」なのだと、思うようになった。

それ以来、私は水をむだにしないように心がけている。歯みがきのときや顔を洗うときに蛇口をしめたり、シャワーの時間を短くしたり、食器を洗うときに水を流しっぱなしにしないようにしたり、小さなことでもできることを続けている。

また、学校の授業で世界には安全な水を使えない人がたくさんいることを知り、私の考えはさらに深まった。日本では蛇口をひねればきれいな水が出るが、それは世界では当たり前ではない。水を手に入れるために長い距離を歩く人や、汚れた水しか使えない人もいる。そうした現実を知ると、自分がどれだけ恵まれた環境にいるのかを改めて感じた。

お母さんの話と学習を通して、私は「当たり前にあるものの大切さ」を強く意識するようになった。水は限りある資源であり、むだにしてはいけない。私たち一人ひとりが少しずつ意識を変えることで、

未来の水を守ることにつながるはずだ。だからこそ、私はこれからも水を大切に使い、当り前のありがたさを忘れずに生活していきたい。

入 選

走りたい。そのために水がいる

常陸大宮市立山方中学校

三年 戸 田 真 生

喉が渇く。水を飲む。そんな当たり前のような環境で私は走っている。でも、水があること、それは、当たり前ではなかった。

令和元年十月に私の住む茨城県は令和元年東日本台風による被害を受けた。当時、私は八歳だった。私の家でも断水が起った。いつ水をはじめとするライフラインが復旧したかは覚えてない。復旧までは給水支援に助けられた。家の人が給水支援を受けるときについていった。当時はどんなふうに水をもろうのか、誰がくれるのか全くわからなかった。市役所に着くと、そこには自衛隊の人と水タンク車が来ていて給水支援をしていたことを覚えている。

そこから水が使えるようになるまで給水支援で

受けた水や家に残っていた水を使って生活した。近くの温泉に行ったときには、知人に会った。その人は「こっちでも断水は続いている。」と言っていた。しばらくして家の人が「変な音がする。」と言った。確かに洗面所の方から音がした。洗面所の水道を見ると透明な水が途切れることなく流れていた。家の人に水が出ていると伝えたとき、安堵と共に嬉しさを感じたのを覚えている。その時、今こうして水を使えることは当たり前ではないと思った。

また、令和八年の一月には水戸市や日立市など茨城県内だけでも五箇所のアメダスで観測史上七年ぶりに降水量がゼロミリ。全国的に水不足が深刻だというニュースをよく耳にした。それに伴い水道代が高くなり、節水を心がけるようにと家の人に言われた。そこから節水を心がけて、水道を使う時間を短くするようにした。今振り返ると、私が当たり前のように使っていた水は、限りある水を多くの人の力によって私の元に届けられていることに気がついた。当たり前ではないこと。そのことはかなり前から気づいていたことだった。しかし、時間が経った

り、あまりニュースなどで耳にしないとだんだん意識が薄れていく。私もそうだった。だからこれからは常に水に意識を向け、限りある水を未来に残すこと、ここまで水を届けてくれる人に感謝して水を使っていきたい。

私は大事な大会に出るためにもスポーツをするうえでは体調管理はとても大切だと思う。そこで大事にしたいのは水分補給だ。私は地区駅伝大会のとき午前中あまり水分を取らなかった。レースの前はある程度飲んでいたがレース中どこか体が重かった。アップも捕食も問題なかった。そこで水分補給の重要性を感じた。だから私は水分補給の大切さについて調べてみた。調べてみて、人間の身体の約六十パーセントは水分で、約二パーセントの水分を失うと口や喉の渇きなどの不快感があり、約六パーセント失うと頭痛や眠気などに襲われる。さらに、十パーセント失うと筋肉の痙攣や循環不全などになり、それ以上だと意識を失い、二十パーセント失うと死に至るということを知った。だから私はスポーツをするうえでも生きていくうえでも水は人間にとって必

要不可欠なものだと思った。

私には陸上競技の千五百メートルで四分五秒切り、三千メートルで九分切りの目標がある。今の私ではどちらの種目でも目標にはまだまだ遠い。でも、「速くなりたい。」この気持ちを持っている以上目標のために私は走り続けるだろう。しかし、私の成長は私の行動だけで成り立っているわけではない。家族や先生、仲間の支えや走れる環境があつて、走れる体があつて、水があつて今も走ることができている。だから感謝と礼儀を忘れず、このすばらしい環境を守るためにも水のことを考え、未来に向かって走っていきたい。

入 選

水が教えてくれたこと

日立市立十王中学校

三年 佐 藤 優 衣

蛇口をひねると出てくる水。私たちはそれを安心して直接飲むことができます。

しかし世界には、安心して飲める水が身近にはなく、整備されていない井戸や川などから水を汲んで飲んでいる人たちが六億六千三百万人もいるといわれています。

私は小学生の時に、小さい子供が遠くまで水を汲みに行っているコマースシャルを見て衝撃を受けました。私よりも小さい子供が学校にも行かずに、水を汲みに行っていることと、命をつなぐための水なのに決して綺麗とは言えない水を飲んでいたので

す。

私は今まで濁った水を飲んだことはありません。

唯一見たことがあったのは、テレビ番組で無人島に行った人が泥水をろ過した後、火で熱して飲んでいるところでした。少し濁っていましたが、飲めそうなものばかりだったので、「泥水を飲む」ろ過をして火で熱す」をみんなやっているものだと思います。

またSDGsの授業で、年間三十万人の子供が汚れた水や不衛生な環境が原因で亡くなっているということを知りました。子供は免疫が弱いいため、感染症や雑菌に勝てず亡くなってしまうことが多いのだそうです。

一方、日本は世界トップクラスで水質が良いといわれています。なぜ水質が良いのか考えたとき、私は小学三年生の時に行った「浄水場」を思い出しました。

浄水場の役割は、ごみや雑菌を取り除いた安全な水を家や学校などに届けることです。それが私たちのもとに届くまでに水がきれいになる六つの重要な工程があります。

まず、薬品を水とよく混ぜ合わせた薬品混和池

を通り、ブロック形成池でにごりのかたまりを成長させます。次に沈でん池でブロックを沈め水のにごりを取り、急速ろ過地で砂の層を通して水をきれいにします。最後に、粒状活性炭接触地で水のおいなどを取り、浄水池にきれいになった水を貯めておくというものです。

私たちが普段安心して水道水を飲むことができるのは、浄水場のおかげです。しかし、もしも日本に浄水場がなかったら、私たちも学校に行かず水を汲みにいき、綺麗ではない水を飲み、いつ亡くなってもおかしくない状況に立たされます。つまり、日本から浄水場がなくなると私たちが今送れている日常は簡単に崩れてしまい、長く生きることが困難になってしまうのです。そう考えたとき、今当たり前のように使っている水は当たり前ではなく、とてもありがたいものなのだと気づきました。

私たちが生きていくうえで水は絶対に必要です。水を安心して使えるが故、私たちは水の価値を忘れかけています。でも、水は有限ではないし、身近に安心して飲める水がない人がいるというのは忘れて

はいけません。それを一人一人が意識していけば、よりよい世界になると私は思います。

入 選

雨不足と私たちの生活

水戸市立笠原中学校

二年 米 田 愛 理

今年の四月上旬、私は愛犬を連れて、池のある公園へ散歩に出かけました。ここ数日、雨が降っていなかったため、池の鯉の背びれの上側が、水面から出てしまっていました。鯉も口をパクパクさせ、苦しそうに見えました。今年の一月も、水戸市で雨不足による水道水の異臭が問題となりました。原因は、雨不足により、那珂川の水位が低下し、藍藻類という植物プランクトンの一種が川底に発生し、かび臭物質を放出してしまったようです。雨不足が人間の生活に影響を及ぼし、生き物達の命をおびやかしていることを知りました。雨不足は、その他にも飲み水や料理、お風呂、トイレなど生活にかかせない水が使えなくなります。また、野菜や果物、米な

どを作るための水が足りなくなってしまう、食べ物にも困ってしまいます。蛇口からは安全な水が出てきて、スーパーには、沢山の食べ物が並んでいて、という当たり前の生活が送れなくなってしまうらと考えるだけで恐ろしいです。

雨不足はなぜ起きるのでしょうか。その原因は、地球温暖化が関係しているようです。雨は、太陽の熱で海や川の水が蒸発し、目に見えない水蒸気になって空にのびります。上空の冷たい空気の水蒸気が冷えて、雲になり、その雲のつぶが大きくなり、重くなって、重さに耐えられなくなり、雨として降ってきます。地球温暖化とくくと、地球の温度が高くなるのだから、蒸発する水の量も増えて、雨の量も増えて、雨も多くなるような気がします。しかし、調べてみると、そんな単純な話ではありませんでした。地球温暖化が進むと、雨がたくさん降る場所、全然降らない場所の差が激しくなります。その理由は、三つあって、一つは、気温が上がると、地面や川、湖の水分がどんどん蒸発してしまうので、地面の水分がすぐ乾いてしまうことです。二つ目は、雨

の降り方のバランスが崩れ、特定の場所に沢山降ってしまい、他の場所では降らない期間が長くなってしまうことです。三つ目は、地球の温度が変わること、雨を運んでくる風の向きや雲の通り道が変わってしまい、今まで雨が降っていた場所に雨が届かなくなることです。

今、私に出来ることは何かを考えてみました。まずは、水の大切さを再確認することです。水を出しっぱなしにしない、食器の汚れは拭き取ってから洗うなど、節水をしようと思います。そして、地球温暖化を防ぐために、二酸化炭素の排出を減らす対策をすることです。そのために、エアコンの温度を気を付けたり、使っていない部屋の電気を消したりしようと思います。また、ゴミを減らすために、食品ロスをしないように気を付けたり、ゴミの分別をして、リサイクルを進めたり、物を大切に使うと思っています。

五月に入り、もう一度同じ公園に犬と一緒に رفتてきました。ここ数日間は、雨が沢山降ったこともあり、池の水は増えていて、鯉も元気に泳いでい

ました。その姿を見て、ひと安心しました。地球上のすべての生き物が安心して暮らすために、水を大切に守るための努力を心がけていきたいです。

入 選

当たり前ではなかった水

水戸市立第四中学校

三年 鈴木 一花

私たちは水がないと生きていくことができません。水は人の身体の約六十〜七十パーセントをしめていて、水がなくなると命や健康に大きな影響が出てしまいます。でも、私が住んでいる日本では、蛇口をひねれば当たり前のように水が出てくるし、コンビニや自動販売機でも簡単に水を買うことができます。だから今までの私は、水の大切さについて深く考えたことがありませんでした。水はあって当たり前のものだと思っていたのです。

しかし、そんな私の考えを変える出来事がありました。ある日の朝、マンションの共用部分のブレイカーが落ちてしまい、水が使えなくなったのです。最初は何が起きたのかよく分からず、いつも通りに

蛇口をひねりました。でも水は出てきませんでした。そのとき、私はとても驚き、不安な気持ちになりました。水が使えないというのは思ったよりもずっと大変なことでした。朝起きてすぐに顔を洗うことができず、すっきりしないまま過ごすことになりました。手も洗えないので、なんとなく不潔な感じがして落ち着きませんでした。また、トイレを流すこともできず、普段何気なくやっていることができなくなっていました。そのとき、「水が使えないだけで、こんなにも生活が不便になるんだ」と強く感じました。

今までは水がなくなることなんて考えたこともなかったのに、このとき初めて、水は無限にあるわけではないんだと気づきました。そして、水が使えることがどれだけありがたいことなのかを実感しました。

この出来事をきっかけに、私は今までの自分の行動を振り返りました。これまで私は、手を洗うときに水を出しっぱなしにしたり、お風呂でシャワーを長く使いすぎたりしていました。特に意識もせず

に水を使っていたと思います。でも、それは水がいつでも使える環境に慣れてしまったからだと思いました。

また、世界には安全な水を十分に使えない人たちがいることを思い出しました。テレビやニュースなどで、水をくみに行くために長い距離を歩かなければならない人がいると聞いたことがあります。そう考えると、自分はとても恵まれた環境にいるのに、水を大切にできていなかったのではないかと思い、少し反省しました。

さらに、日本でも地震や台風などの災害で水が使えなくなることがあると知りました。今回の出来事は短い時間で終わりましたが、もし何日も続いたらと思うと、とても大変だと思います。そう考えると、普段から水を大切に使うことや、いざというときのために備えておくことも大切だと感じました。

この経験を通して、私は水に対する考え方が変わりました。水は当たり前にあるものではなく、生活を支えてくれている大切なものだと分かりました。これからは、水を無駄にしないように気をつけ

て生活していきたいです。例えば、手を洗うときにはこまめに蛇口を閉めたり、お風呂のシャワーの間も少し意識して短くしたいと思います。しかし、これを一人だけがしても大きな変化にはつながらないと思います。なので、たくさんの人に水の大切さを分かってもらいたいです。

そして、水が使えることに感謝する気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。今回の経験で、当たり前だと思っていたことの大切さに気づくことができました。これからは、その気持ちを大切にしながら、水を大事に使っていききたいと思います。そして、この気持ちをこれからも忘れずに生活していきたいです。

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年 5 月 31 日

閣 議 了 解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年 8 月 1 日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決をはかり、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することといたしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている 8 月の上旬が適当であるので、その初日である 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

第48回「全日本中学生水の作文コンクール」茨城県審査について

1 募集要領

(1) 趣 旨

「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として、次代を担う中学生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く水に対する関心を高め、理解を深める。

(2) テ ー マ

水について考える（題名は自由）

(3) 対 象

令和8年度に県内中学校、中等教育学校1～3年次及び義務教育学校7～9年次に在学中の者

(4) 応募締切

令和8年5月8日（金）

(5) 原稿枚数

400字詰原稿用紙4枚以内

2 応募状況

(1) 応募総数

484編

学年別 1年 176編 2年 143編 3年 165編

(2) 応募校

7校

茨城大学教育学部附属中学校 県立鹿島高等学校附属中学校 坂東市立猿島中学校 常陸大宮市立山方中学校 日立市立十王中学校 水戸市立笠原中学校 水戸市立第四中学校

3 審 査

(1) 審査方法

予備審査を通過した作品について、茨城県審査会（令和8年5月27日実施）で審査を行い、最優秀賞1編、優秀賞4編、入選5編及び学校奨励賞1校を選定した。（学校奨励賞は水戸市立笠原中学校）

また、入賞した上位5作品について、国土交通省で行われる中央審査に推薦することも併せて決定した。

(2) 審査基準

① 優秀作品

テーマ「水について考える」にふさわしく、日常の生活体験や学習を通じて得られた内容で、次の基準を満たすもの。

- ・水の貴重さ、水資源開発の重要性などが適切にとらえられていること
- ・将来の夢、提案等が中学生らしくまとめられていること
- ・抽象的、観念的なものではなく、地域性や実体験等、具体的な事柄が描かれていること
- ・字句の正確さや、文章の構成がよくできていること

② 学校奨励賞

当コンクールに積極的に参加していること

(3) 審査委員

委員長 株式会社茨城新聞社 統合編集・DX推進本部編集局長 山本 和朗

委 員 株式会社Lucky FM茨城放送 代表取締役社長 黒坂 修
代理 取締役会長 北島 重司

委 員 茨城県土木部河川課 課長 大塚 秀二

委 員 茨城県企業局企画経営室 室長 石川 裕之

委 員 茨城県政策企画部水政課 課長 岡崎 一裕

4 表 彰

(1) 表彰式

令和8年7月29日（水）

(2) 賞及び副賞

最優秀賞（茨城県知事賞）	1名	賞状、副賞（図書券）
優秀賞（茨城県知事賞）	4名	賞状、副賞（図書券）
入 選（茨城県知事賞）	5名	賞状、副賞（図書券）
学校奨励賞（茨城県知事賞）	1校	賞状



茨城県

茨城県政策企画部水政課
〒310-8555 水戸市笠原町978番6
電話 (029) 301-2625
<http://www.pref.ibaraki.jp/>